

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) タカサキケイザイダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ミズグチゼミ
高崎経済大学	経済学部	水口ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) オンダンカ	フリガナ) マツイ シュンスケ	4 人	無
おんだんか	松井 俊介		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
指示棒

研究テーマ (発表タイトル)
ハワイから見る日本の再生可能エネルギー

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

ゼミで、環境問題について学んでいく中で、ハワイが 2045 年までにすべての電力を再生可能エネルギーだけで賄うと法律で定められたと知った。ハワイ州は先進国で島国であること、最近まで化石燃料の輸入に頼った火力発電が中心であったこと、現地に日本人・日系人が多いことなど、日本と共通点が多い。ハワイの先進的な取り組み・制度を調べ、日本の再生可能エネルギー発電増加に向けた糸口を探る。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

ハワイでは、2008 年の石油価格高騰で米国本土に比べ電力価格が 3 倍以上になった。化石燃料依存に危機感を覚えた州政府は、ハワイ・クリーン・イニシアチブを設立し、2030 年までに再生可能エネルギーのみで、電力を 70%賄う目標が決められた。目標実現に向け、新築住宅には太陽光パネルまたはウォーターヒーターパネルの設置を義務づけ、それに伴う補助金制度が出来るなど、制度面も充実して来た。その後この動きは加速し、2045 年までにすべての電力を再生エネで賄うことが法律で定められた。そうしたこともあり、2008 年から 2016 年までの 8 年間で再生エネルギー割合は 10 パーセントほど増加し、現在は 25%

を超えている。

一方、日本では電力固定価格買取制度 FIT や環境税などの取り組みができたものの、2016 年時点で再生エネルギー割合が 14%ほどに留まっている。

3. 研究テーマの課題

エネルギーについての日本の問題点は大きく分けて二つある。一つ目は、Co2 排出量が多い火力発電が電力供給の中心になっている点である。東日本大震災による原発停止により、火力発電の割合は以前より増加している影響で Co2 排出量も増えている。そして、二つ目は、その発電に必要な化石燃料の多くを中東から輸入している点である。中東は情勢が不安定で、万が一輸入が停止された場合を考えるとリスクがあるといえる。この低いエネルギー自給率を、いかにして高めるかということが日本の課題である。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

再生可能エネルギーを推進させる具体的数値目標が日本はない。それだけでなく、国レベルでの再生可能エネルギー推進を促すような制度や法律がない。太陽光パネルの設置の義務化、補助金制度がない。環境団体などが自発的に企業や行政を巻き込んだ運動が盛んでない。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

実際にハワイに行き、ハワイ・クリーン・エナジー・デイというイベントへ参加した。これは、ハワイ州のエネルギーに関する政府、企業、NPO など様々な立場の人が集まる年に一度の大イベントとなっている。今年のテーマは、ハワイでのエネルギー使用量が多く問題になっている「輸送部門」の省エネについてだった。今回参加を通じて、ハワイの再エネ 100 パーセント達成に向けての現状や日本との意識の違いを知ることができた。

6. 結果や今後の取り組み

日本とハワイの決定的な違いは、再生可能エネルギーの活動主体である。日本は行政であるのに対して、ハワイは地域団体や民間、NPO が主体となっている。また、人口や面積といった違いも生じる。このままハワイの取り組みを日本にそのまま落とし込んでも上記の相違があることにより有効的な手段といえない。ハワイと似た規模で取り組むべきであるため日本においては都道府県規模で再生可能エネルギーを推進させる活動をしていくべきと考えている。例えば、北海道では洋上風力、日照時間が長い山梨や北関東の三県では太陽光発電、温泉が多く沸く大分県では地熱発電を促進していくべきである。日本国内各地で運動を行うことにより、日本全体での再生可能エネルギーの注目が高まる。また、各地での再生可能エネルギーの自給率が高まることにより日本全体での自給率も高まり、持続可能で安定した社会が築いていけると考えている。今後は各地のエネルギー状況について研究をしていく。

7. 参考文献

<https://www.hawaiianelectric.com>

<http://www.hawaiicleanenergyinitiative.org>

<http://www.isep.or.jp/archives/library/9570>

<http://www.hawaiienergypolicy.hawaii.edu/outreach-communication/hawaii-clean-energy-day/index.html>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください